

三世代で受け継ぐ鹿島神社大祭

佐賀地域で百年以上続くと言われる「鹿島神社大祭」は、漁師の豊漁や航海の安全を祈願する地域のお祭り。3月5日(日)、佐賀地域に住む幅広い年代の人々が参加し、1年間の幸福を祈りました。

午前8時半、神職と氏子の代表者が鹿島へ渡り、ご神体を迎えにあげる出御祭を済ませ陸へ戻り、その後、佐賀の街中を男神輿・女神輿それぞれに分かれ練り歩きました。

また、保育園児たちは色鮮やかな衣装とメイクに身を包み鼓踊りの披露をしました。

お昼にはカツオのたたきなど美味しい食事をほおぼり、最後の「大入り」と呼ばれる祭りのメインへ腹ごしらえ。

大入りでは、えびす神社で音頭の舟歌に合わせて「よいよい」と掛け声を発しながら神輿を揺らし、迫力あるクライマックスを迎えました。その後、ご神体を乗せた船とともに数十隻の漁船がパレードを行いながら鹿島へ戻り、祭りに幕を閉じました。

漁師の多い佐賀地域では「鹿島神社大祭」は大切な祭りの一つで

すが、年々後継者が減少していることが地域の課題。それでも、子どもが踊り、若手が神輿を担ぎ、年長者が祭りを引っ張るといいうに各年代が活躍し、見せ場のある祭りは珍しく、人と人との繋がりが希薄になった現代に、重要な意味をもたらしてくれるお祭りではないでしょうか。



可愛い衣装で歩く小さな子どもたち



神主と地域の人々



神輿を担ぐ地域の男性陣



女性も負けじと走り出します



魚飯を食べる子どもたち

福祉充実求め町へ寄付

長らく佐賀地域で開院されてきた宮崎医院の医師である宮崎延男先生が平成16年にお亡くなりになり、奥様の道さんも昨年5月に101才でお亡くなりになりました。

去る2月22日、宮崎道さんの次女で、土佐市在住の川田素子さんが佐賀支所に来庁し、「生前、父母が地域の方々に大変よくしていただいたので、福祉の充実に役立って欲しい」と100万円のご寄付をいただきました。

川田さんは、兄の宮崎南雄さん、姉の石本笙子さん、弟の宮崎純一さんの4人兄弟で、ご寄付は4人の連名によるものです。

当日は、佐賀支所の応接室で大西町長から川田素子さんに感謝状を贈呈させていただきました。いただいた

ご寄付は寄付者の意向に沿って、福祉の充実に役立ただせていただきます。



川田さん(左)から寄附を受け取る町長

かまどベンチで地域力強化へ

町内2基目となる「かまどベンチ」が中村地区建設共同組合から伊与喜小学校へ寄贈され、それを記念したイベントが3月11日(土)に開催されました。

かまどベンチは、普段は椅子として利用し、災害時には炊き出し用の竈として活用してほしいと、同組合が地域の防災力強化を願い寄贈したものです。町内では三浦小学校に続き2基目の設置となりました。

当日は、伊与喜小学校の児童16人やJICAの視察隊15人、その他関係者らが出席。竈を利用してカレーや豚汁を作る炊き出し訓練や、高知大学准教授・大槻知史さんや学生サークル「防災すけっと隊」による防災ミニ講座が行われました。

同組合は、今後四万十市西土佐地区への寄贈も予定しているとのこと。「学校や地域内で有効的に活用してほしい」と思いを込めました。(関連記事25ページ)



かまどの前に並ぶ子どもたち